

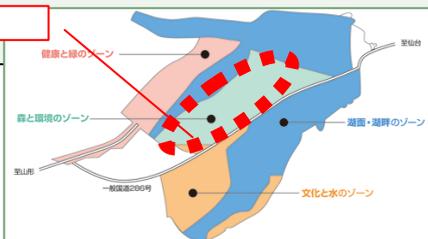
「里山地区」とは？

みちのく公園「里山地区」は、公園区域中央、釜房湖に突き出した部分にある雑木林とスギ・ヒノキなどの植林地で構成された里山です。

「人と自然のふれあい」をメインテーマとして、平成26年春の開園を目指しています。これまで、ツリーハウスづくり、樹林地管理や観察会など、さまざまな活動を行ってきました。

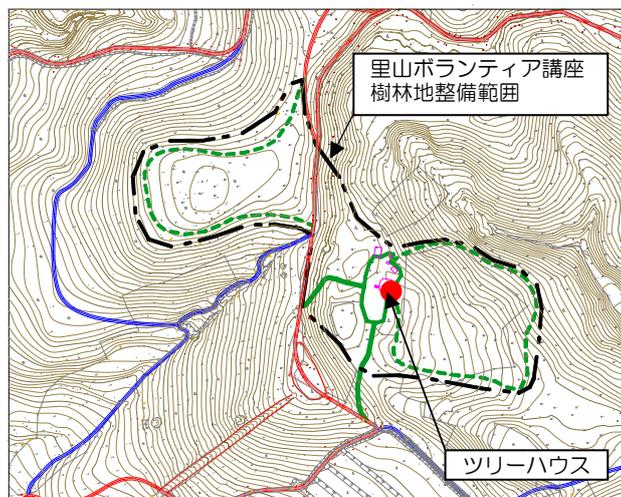
今年度は、開園を目指して、「里山遊び塾」・「里山育て塾」・「里山発見塾」の3つの活動を行っていきます。

里山地区



平成 25 年度は、6月29日に新年度ガイダンスを行い、7月からは正式にスタートしました。今後は、「里山遊び塾」を月2回、「里山育て塾」・「里山発見塾」をそれぞれ月1回のペースで、毎週活動を行っています。

里山育て塾 8月3日(土) 曇りのち晴れ



まずは、刈り払い！刈り払い機の刃を笹用の刃に替えて、どんどん刈っていきます。笹だけでなく、低木類も刈っていききました。

そうすると、大量の刈りクズが出ます。あっという間に山になるほど。これはそのままにしておけないので、チップパーで砕くことにしました。新型のチップパーは働き者！「バリバリ！」っと、すごい音と共に、笹のチップができていきます。



刈り払いが進み、チップを敷き均していくと、だんだんよい広場になってきて、活動の夢が広がっていきます！

●アズマネザサの刈り払い

ツリーハウスから散策路を挟んで反対側、高台の比較的平坦な場所に、活動場所を広げることにしました。でも、ここは人の背丈ほどもあるアズマネザサが大繁茂しています。入るにも勇気が必要なほどです。



●炭焼き窯づくり計画

川崎町の里山では、伝統的に、木を切って炭を焼いていました。これまでの活動では「ピザ窯づくり」を考えていましたが、それを変更して、昔のような炭焼き窯を作ることにしました。

そこで、川崎町の炭焼き名人に来てもらい、現地 の状況をよく見て、炭焼き窯を作る場所、大きさ、 作り方などの指導を受けることになりました。

ツリーハウス周辺で炭焼き窯を作るのに適した 場所は? 良い場所がありました!

ツリーハウス南側の斜面で、スギの間隔があいて いるところです。斜面を5尺(150cm)程掘り込み、 平らな場所を作り、石を積んでいき、その上を粘土 で覆って石窯を作ります。

さあ、新しい活動の始まりです!

●ツリーハウスの仕上げ

ツリーハウスは、仕上げの細かな造作をしています。 サードデッキに至るハシゴは角度がきついので、安全 のためにに手すりを付けることにしました。



●ベンチづくり

9月から会員活動を開始します。そのため、活動場 所を整理して、みんなが座れるように、丸太ベンチを たくさん作りました。



川崎町の古老お二人におい ていただき、昔の暮らしの様子 を聞きました。お一人は小野在 住、もうお一人は笹谷在住の 80代です。地域による違いも 聞くことができました。

現在の里山地区は、いわゆる薪炭林で、樹木は主 に薪に使われていたため、禿山の状態だったそう です。炭焼きは、ここでは土窯で黒炭が焼かれていた そうです。ここには、わずかに杉の植林地があり、今も 残っています。釜房湖側の河岸段丘は、「三作(みつ くり)」と呼ばれる豊かな畑で、そこに至る道は「み つくり道路」と呼ばれていたそうです。その頃、笹谷 では、石の窯で白炭が焼かれていたそうです。



里山地区には3つの神社があって、それぞれ、近く の住民に祀られていました。戦前の釜房ダム建設計画 (これは戦争で中断)、戦後の釜房ダム建設、公園建 設と、川崎町では3回の大きな事業があり、その度に 住民は移転して、神社にお祀りする人がいなくなり、 神社も移転しました。

たくさんの人が移転していったけれど、その結果、 不幸になった人はいなかったそうです。

川崎町に、昔はカモシカが沢山住んでいて、「ア オ」、「アオシシ」、「シシ」などと呼ばれていました。 近くにある「シシナゴ山」は、カモシカがイナゴの ように居たから付けられた名前だそうです。

午後、聞いた話を現地 で確認するために、「三作 (みつきり)」へ行ったら、なんと、カモシカの 親子に出会いました!

